

創立50周年記念式典

5月13日(火) ホテルメトロポリタン仙台で

＝記念講演は東京国立博物館の銭谷眞美館長＝

はなやま

公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 早坂貞彦

昭和40年1月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和39年5月9日に宮城県花山村(現栗原市花山)の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

宮城県芸術協会は、今年創立50周年を迎え、その記念式典が五月十三日午後四時から仙台市青葉区のホテルメトロポリタン仙台で行われる。

当協会は、昭和三十九年五月九日に、芸術各分野の有志が当時の門伝勝太郎県議会議長の招きで花山ダム湖畔の宿に集まり、芸術祭実施のための組織を協議した結果、誕生した。

当初は絵画、書道、彫塑、工芸、音楽、文芸、演劇、華道の八分野だったが、後に舞踊、茶道、写真が加わり、平成二十五年度に音楽が洋楽と邦楽に分かれたため、現在は十二分野、約二千二百

人の会員となっている。記念式典は午後四時に始まり、記念講演、記念式典、祝賀会の三部構成で行われる。第一部では、東北大学出身で、我が国の芸術文化に詳しい、東京国立博物館館長の銭谷眞美氏による「文化芸術の力と東北」という記念講演がある。第二部では、早坂貞彦理事長

宮城県芸術協会創立50周年記念式典次第

日時 平成26年5月13日(火)
会場 ホテルメトロポリタン仙台

受付 15時30分より

第一部 記念講演 (16:00 ~ 17:10)

講師紹介 早坂貞彦理事長
東京国立博物館館長 銭谷眞美先生「文化芸術の力と東北」

第二部 記念式典 (17:20 ~ 18:20)

挨拶 公益社団法人宮城県芸術協会理事長 早坂貞彦
祝辞 宮城県・仙台市・河北新報社・県文化振興財団
来賓紹介
感謝状贈呈 名誉会員 13名
創設以来の会員 25名

受賞者代表挨拶

第三部 祝賀会 (18:30 ~ 20:00)

のあいさつに続き、来賓からの祝辞が予定されており、その後早坂理事長から名誉会員十三人と創設以来の会員二十五人に感謝状が贈呈される。

第三部は祝賀会で、オープニングに邦楽部会員による長唄「松の緑」の演奏がある。

創立50周年記念行事実行委員会では、記念すべき式典に多くの会員が参加するよう、部長会などを通じて呼び掛けている。

平成26年度定時総会

役員改選などを審議

5月31日(土) 仙台市福祉プラザで開催

平成二十六年度の公益社団法人宮城県芸術協会定時総会は、五月三十一日午後二時四十分から仙台市青葉区五橋の仙台市福祉プラザふれあいホールで開催される。今回の総会では、平成二十五年度事業報告及び収支決算、公益法人移行後初の理事改選などが議題となる。

平成二十六年事業計画と収支予算については、公益社団法人化により理事会の議決案件となったため、総会では報告事項となる。

「はなやま」が二〇〇号到達

当協会機関紙「はなやま」は本号で創刊二〇〇号目を迎えた。創刊からちょうど50年目にあたる。創刊号は昭和四十年一月、第一〇〇号は25年目の平成元年三月に発行されている。

体裁は、第一〜四号は小冊子であったが、第五号からB4版両面刷、第十号からB5版、第一八八号からA4版へと変わった。

事業計画では、宮城県芸術祭の開催、芸術文化の振興に関する展覧会・講演会・研究会・発表会などの主催または後援、国内及び国外との芸術文化の交流といった公益目的事業について、今回は芸術創立50周年を記念して公益性を一層高めるための事業も組み込まれている。

また総会に先立ち、午後一時三十分から、大場尚文執行理事による昨年度の大邱との交流事業の報告と、公演を収録したDVDの放映が予定されている。



芸協とともに半世紀

芸協のシンボルマーク「雲」は、様々な分野の芸術家達がふんわり集まり、巻雲のように盛り上がりつつ纏まった姿を表す。創設当初の理事安倍郁二氏によるデザイン。

機関紙「はなやま」は、今号で記念の二〇〇号を数える。

創立50周年を迎えるにあたり、会創設の翌年発行された創刊号の初代会長黒川利雄氏の巻頭言

を記し、創設時の目的・精神を思い起こしたい。

「宮城県芸術協会の精神は、われわれの愛する郷土、宮城県の芸術文化を興隆させる上の、光榮ある奉仕者になることにある。従って主催する芸術祭は、会員売名の場でもなく、(中略)会員に何の実益も恩典もない。然し、敢えていいたい。郷土の芸術文化の興隆のための奉仕者になること、それ自体が、名誉ある恩典なのである。」と。

さて、50年前の昭和39年5月9日、宮城県芸術協会は、現在の栗原市花山の湖畔亭で20人の文化人により、芸術祭開会を期して誕生した。

会場はなく、十分な補助金もないまま、総合芸術祭を継続して実施するに強く歩んで行きたい。

創立50周年を迎えて

理事長 早坂 貞彦



とは、「赤子に重き荷を負わせ山路を歩かせるようなもの」と、創設者杉村彩雨氏は述懐しておられた。以来50年、時に改革、変遷を経、会は世の信頼を得て、今や七者共催と官民一体の芸術祭に発展した。

昨年、当協会は公益社団法人となり、今年50周年を迎えて「県民と共に芸術の輪を広めよう!」と、部門間のコラボによる公演や公募等を企画中である。しかし、省みると公益法人化への歩みも、新企画も巻頭言の精神の掌中であることに気付き、創設のビジョンの大きさに感服した。

50周年にあたり、在野団体により芸術祭を主催運営している団体は、日本広しといえども宮城県芸術協会のみであることを大いに誇り、創設時の先人たちに感謝したい。創設の精神を忘れず、大胆にして謙虚に、本県芸術文化の振興を期して力



絵画部
菊地 義彦

「志」を失わずに

地方在住の自分にとっては、芸協の創立で作品発表の場と先輩画家達との交流が出来たようになった事が嬉しかった。

やがて巡回展が始まり、栗原、登米、本吉地区が会場になると「菊地さん、よろしく」と理事でもない私が、展示、解説を依頼され、時には芸協代表の挨拶までさせられた。各会場で様々な経験をしたが、美術文化への意識や美術展への認識には、かなりの格差があった。

したがって、各会場の担当者への指導、助言も、大きな仕事の一つであったが、今思うと巡回展は作品鑑賞の場としてはかなりでなく、美術振興とその啓蒙というもう一つの大きな役割も果たして来たのだと思っている。

五十年前、あの頃の若い作家達には志というものがあつた気がするのだが、年老いても「宮城の美術振興」という大目標を失わずに、制作を続けていきたい。



書道部
池田 和京

文学と書の融合を

書を始めて日が浅かった私は、近代詩文書という新しいジャンルに心ひかれ、第一回展に「葡萄島」を出品した。豊かに熟れた葡萄の房を逆三角形の空間に見立てて、絵画的な構成にした。みずみずしさと立体感を出すために淡墨を使用してみた。この作品は「民友賞」を受賞した。小さなカップを頂戴して面映ゆかったことを覚えている。

すんなり作品が出来るとは、まずない。しかし苦しんだだけ充実感は大いし、完成後の解放感は何物にも替えがたい心地よさだ。この解放感こそが次の作品を生む原動力になっているのは紛れも無い。

一昨年は菅原圃也句「女郎蜘蛛」を出品して共感を得た。詩文書は、詩のテーマを表現することが究極の目標だと思う。気力、体力がある限り書いていきたい。



工芸部
高倉 健

石巻巡回展の思い出

宮城県芸術祭の巡回展は従来「芸術祭参加」行事として宮城県の依頼を受け絵画と書道部門が開催していた。工芸部は平成六年芸協独自の企画として参加することになった。

第一回展は石巻文化センターで開催された。石巻近辺在住の工芸部会員の協力を得ての開催であった。オープンの日、私が作品の解説をした。最高賞は気仙沼の福田憲二氏の象嵌の大皿であった。解説のあと女性の方から「これらの作品は本当に宮城県の方が作ったのですか」と質問された。私はそうですよと答えしたが、信じられない様子だった。地方で開催の展覧会では三百人位の来場が普通だが、石巻展では千人近い入場者があった。会期中、地元の方々と会食する機会があり、その楽しい席で、私は心底から巡回展をやったよかったですという思いに駆られたことを今、懐かしく思い出す。



彫刻部
翁 観二

宮城県芸術祭と共に

創立五十周年おめでとうございます。五十周年と聞いてあらためて芸術祭と共に過ごした時間の長さに驚いています。当時の思い出はとペンを取ったもの、あまりの時のギャップに明瞭な記憶が蘇ってきません。

その頃は27歳と若く、既に仙台を離れていましたので、当時の宮城県の美術界の事情にも浅く、芸術協会の発足への機運の高まりや活動の実態を詳しくは知りませんでした。創立メンバーの芸術協会結成への信念と情熱が、数多くの難題を乗り越えて、目標の芸術祭の基礎を創られたことに、会員の一人として感謝し、次世代の会員に渡す責任を重く感じています。宮城は私の作家活動の原点と考えており、宮城県芸術祭を核の一つと位置付けて、今後も共に進化を目指さなければと気持ち新たにしています。



文芸部
佐久間 晟

短歌は人間修養

今、私の手元にある「芸協十周年史」ほかによれば、芸協発足当時の四年間の文芸部員数はわずかに五名であった。それが五年後の昭和四十五年になり急に六十九名に増えた。私の入会も多分この頃ではなかったかと思っている。扇畑忠雄先生から、勧誘ではなく命令の「会員になれ」の一言があったと記憶している。私の短歌が「芸術」などという大それた思いなど全く無かった私にとって、ただただ面映ゆい思いのみであった。むしろ私は、釈道空の『歌の円寂するよき』の「歌人は人間が出来ていないのでやがて滅びる」の論説に関心の重点があり、短歌による人格の形成に力点が注がれていた。

それで、協会の記事、雲上人集団の「雲」のマークも気が引けて今もって付けたことはない。短歌はあくまでも人間修養であるという信念は崩れていないゆえ。



絵画部
飯淵 健一

感謝、感謝の50年

第二回県芸術祭選抜美術展で初受賞は嬉しかった。審査に当たられた錚々たる先生方より大いに激励、ご指導を受けた。「文化振興」を期し、県内各界代表の先生方の協力で芸術協会が成立。昭和三十九年十一月に第一回芸術祭美術展が開催されたが、その頃は展示に適した公共施設が無く、デパートの催事場、民間の展示施設に頼った。会を運営された先生方のご苦労は大きかったろうと察する。

昭和三十一年、新米教師として公立中学校に赴任し、戦後の生徒激増時は超多忙で大変だった。公募展に備えての制作は容易でなかった。絵画表現の世界は言い訳無用で厳しいが、芸術祭で五十年間会員として作品展示の場を与えられたことに感謝している。現在、絵画部の会員は増え、作品は個性豊かな力作、大作が展示されて、鑑賞者の数も増加した。会成立時の先生方の情熱に込めねばと思う。

38名に感謝状贈呈

五月十三日にホテルメトロポリタン仙台で行われる記念式典では、名誉会員十三名と創立以来の会員二十九名（うち名誉会員四名）の計三十八名に感謝状

が贈呈される。贈呈されるのは次の方々（敬称略）。

◇名誉会員 *印は創立以来の会員

【絵画部】 *成瀬忠行・高倉勝子

*新澤玉雄・渡辺雄彦

能島和明

【工芸部】 *針生乾馬・高倉健

【書道部】 *山崎晁秋

【華道部】 及川光波

【邦楽部（長唄）】 吉住小とわ

【文芸部】 佐久間晟

【茶道部】 星悠丈

【写真部】 大内四郎

【絵画部】 跡部高染・飯淵健一

壱岐嗣子・小山喜三郎

小崎隆雄・菊地義彦

高橋幸造・千葉太郎

野村健司

【彫刻部】 及川茂・翁観二・翁謙

【華道部】 西村一観

大友小羊・小野寺修芳

加藤白柳・狩野翠桂

佐藤喜仙・佐藤静香

高橋孤舟・長井四枝

【賛助会員】 水野喜重子

創立 50 周年
記念事業

「半世紀の精華」をテーマに展開

記念事業部会は、記念事業のテーマを「半世紀の精華」とし、十月四日(土)・五日(日)にせんだいメデアタークで「芸術ふれあい広場パートⅣ」、十一月一日(土)に県民会館50周年記念事業と共催して、東京エレクトロンホール宮城を会場に、大邱との交流事業を組み込んだ舞台公演を実施することを決めた。このほか、宮城県文化振興財団と連携し、年末の光のページェントに合わせて東京エレクトロンホール宮城で絵画展、写真展も行う。

「芸術ふれあい広場パートⅣ」

せんだいメデアタークで10月4・5日開催

「芸術ふれあい広場」は、平成十三年の芸協社団法人化10周年記念に初めて開催し、平成十六年の芸協創立40周年記念にパートⅡ、平成二十一年の創立45周年記念にパートⅢを開催しており、今回もシリーズを踏襲し、パートⅣとして実施する。

会場もこれまで同様せんだいメデアターク一階で、十月四日(土)、五日(日)の両日にわたって開催する。内容としては、書道部による揮毫や茶道部による点前実演があるほか、洋楽部と華道部、書道部と文芸部、洋楽部と邦楽部、

協ならではの競演のステージで芸術の楽しさをアピールする。

光のページェントに合わせ て絵画展、写真展も開催

宮城県民会館50周年との二つ目の連携事業として、十二月に東京エレクトロンホール宮城で絵画展、写真展を実施する。

こちらは、宮城県文化振興財団が主体となり、宮城県芸術祭受賞者による絵画展や、「定禅寺通り」をテーマとした写真コンテストを行うもので、これに当協会の絵画部と写真部が全面的に協力する形となる。

11月1日に東京エレクトロンホール宮城で

大邱との交流も含めた舞台公演

昭和三十九年に設立された当協会と宮城県民会館が共に50周年を迎えることから、連携して記念事業を実施することになり、十一月一日(土)に東京エレクトロンホール宮城で音楽を中心とする大規模な舞台公演が行われる。今年度仙台で実施予

定の大邱との交流事業も組み込まれる。県文化振興財団との共催事業となることから、大ホールの使用料は免除される。内容は検討中であるが、芸協50年の歩みに即した四部構成で、司会には東北放送の藤沢智子アナウンサーの出演も予定。

当協会は、昭和四十九年の10周年史を手始めに20周年史、30周年史、40周年史と、十年ごとに歩みをつづってきた。

今年50周年史。五月の創立50周年記

「芸協50周年史」は十月末刊行

軌道に乗った。

念式典などのイベントとともに、40周年史の後の十年を中心に、協会創立からの半世紀を振り返る。

昨年十月から実行委員会、

各部の部長・副部長

新運営委員(敬称略)

四月一日付の各部の部長、副部長は次のとおり。

(敬称略)◎ 〓部長◎ 〓副部長

【絵画部】◎吉田利弘◎及川英之◎佐藤朱希【彫刻部】◎菅原裕◎大槻俊之◎小関俊夫【工芸部】◎近藤孝則◎安藤令子【書道部】◎千葉蒼玄◎太田蓮紅◎建部恭子【華道部】◎丹野霞園◎佐藤理智◎三浦景舟【洋楽部】◎八島秀◎大崎健二【邦楽部】◎杵屋和喜久◎佐藤皖山【演劇部】◎大日琳太郎【文芸部】◎あきた・じゅん◎坂内佳禰【舞踊部】◎高橋厚子【茶道部】◎大和田宗嬌◎鎌田宗節◎菅原宗玉

【写真部】◎千葉春秀◎小野茂

世話人会の会合を重ね、一月の世話人会では編集作業全般を委嘱した南北社から、具体的な作業手順や執筆の要項などが示され、スケジュールが今後、五月末には原稿締め切り、十月中旬から末にかけて印刷、製本の段取りが進められるが、充実した内容の周年史になる予定となっている。

【絵画部】梅森さえ子、小川和子、坂本和之、庄子幸一、高松和樹、平垣内清、柘澤怜、松永弘、守田美代子【彫刻部】赤井靖武、阿部弘子、板持彰、亀井陽逸【華道部】阿部翠枝、及川光富、山本瞳風【洋楽部】岩倉敦子、大崎健二、松山裕美子【邦楽部】浅沼香由、浅野繡葉、田村雅楽、岩崎郷山、鎌田佐美音【文芸部】近江静雄、小林里子、中條節子【茶道部】石澤晋方、清水道玄、渡辺南香【写真部】落合英俊、加藤友一、関敏彦、竹内邦昭、三浦健太郎、山本かつい

カメイ美術館と共催絵画展 テーマは「個の展開」

＝初のギャラリーコンサートも好評＝



絵画と室内楽の競演（ギャラリーコンサート）

当協会とカメイ美術館の共催による絵画展「個の展開」が、二月四日から三月十六日まで仙台市青葉区のカメイ美術館で開かれた。

二十三年度の「継承する力」、二十四年度の「自律の様相」に続く第三弾の展覧会。洋画、日本画の会員合わせて29人が出品した。来場者は千五百人余りであった。

会期中、二月二十五日に出品者によるギャラリートークが開かれ、作品解説が行われた。また三月二日には、初の試みとして当協会洋楽部の若手会員によるギャラリーコンサートが開かれた。多くの来場者がピアノ、バイオリン、フルートによる室内楽の演奏に聴き入った。

オーケストラが奏でる校歌に涙

ミュージックフェスタ2013 in くりはら

当協会、栗原市、宮城県文化振興財団の三者共催による「みやぎミュージックフェスタ」が二月二日、栗原文化会館で開催された。「歌い継がれた校歌よ永遠に」

知事賞に永倉茉弥さん

第34回ピアノコンクール

宮城県における小・中学校児童生徒の音楽的資質向上を目的とする、当協会主催の第三十四回音楽コンクール（ピアノ部門）本選が三月二十一日、仙台市戦災復興記念館で開かれた。審査の結果、宮城県知事賞には永倉茉弥さん、仙台市長賞に齋藤尚生さん、河北新報社賞に鮫澤菜々美さんが、それぞれ選ばれた。各級の受賞者は次のとおり

（敬称略）。

【初級】

- 最優秀賞 永倉梨帆（仙台市立黒松小1年）、大内ひなた（仙台市立袋原小3年）、優秀賞 及川華奈（仙台市立将監中央小3年）、奨励賞 梶井かりん（仙台市立向陽台小3年）

【中級】

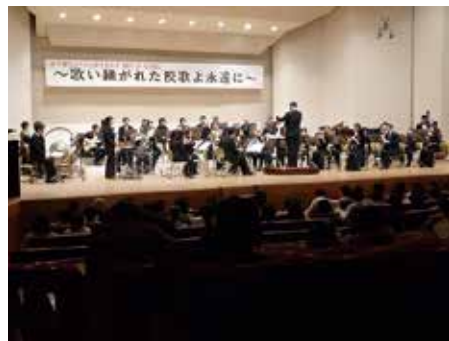
- 最優秀賞 齋藤尚生（仙台市立泉ヶ丘小4年）、優秀賞 木村慧

奏楽団・合唱団などが演奏した。会場には各校の卒業生など約550人が詰めかけ、思い出深い校歌のメロディーを口ずさんだ。中にはオーケストラの迫力ある演奏に感動し、懐かしさで目頭を熱くする聴衆もみられた。

洋楽部が震災復興支援あしなが育英会にピアノ寄贈

あしなが育英会にピアノ寄贈

当協会洋楽部は三月二十九日、あしなが育英会が東日本大震災で親を亡くした子どもを支援するため建設した「石巻レインボーハウス」に電子ピアノ一台を寄贈した。ピアノは洋楽部が平成二十四年度に行った震災



聴衆を魅了したオーケストラによる校歌演奏



電子ピアノの目録を渡す大場執行理事

復興支援チャリティコンサートの売上金で購入したものの。当日は、大場尚文執行理事と洋楽部の渡部勝彦部長らが施設を訪れて、あしなが育英会の若宮紀章課長に目録を渡し、同行した洋楽部会員が「花は咲く」などの曲をお披露目演奏した。

杜の都大茶会

五月二十四日(土)・二十五日(日) 勾当台公園で

当協会と河北新報社が主催する「第十八回杜の大茶会」は、五月二十四日(土)二十五日(日)の二日間にわたり仙台市青葉区勾当台公園内で開かれる。

この茶会は、金沢、松江と共に日本三大茶会に数えられ、青葉祭りと共に仙台の初夏を彩る恒例行事として親しまれている。

「茶道とは、ただおいしくお茶をいただくこと」との利休の言葉にならない、おいしいお菓子をいただき、一椀のお茶に、日本独自の伝統芸術である茶道を形にとらわれず楽しめる格好の場である。

芸協茶道部加盟の十三流派が七つの茶席でお点前を披露する。



新緑の中で行われた昨年の大茶会

流派ごとの日程は次のとおり。

◇五月二十四日(土) 煎茶文雅静庵流、煎茶道清泉幽茗流、武者小路千家、大日本茶道学会、宗徧流、江戸千家、表千家

◇五月二十五日(日) 石州清水流、玉川遠州流、煎茶道三彩流、織田流煎茶道、遠州流茶道、裏千家

茶券は前売りが二席分千円、当日券は一席分が七百円、二席分は一二〇〇円。

文学散歩は9月30日～10月1日

新潟地方の文学と替女の唄

本年の文学散歩は、テーマを「新潟地方の文学と替女の唄」とし、9月30日(火)と10月1日(水)の両日、新潟・蓬平温泉方面を訪ねることになった。

詳細は次号に掲載の予定だが、替女の里高田のほか、坂口安吾、小林古径、良寛の各記念館、弥彦神社などを巡り、夜は肌に優しい泉質の蓬平温泉に宿泊する。

今回も内容の充実した文学散歩となる。ぜひご期待を。

平成 26 年度 新入 会員 名簿

部 門	氏 名(本 名)	住 所	部 門	氏 名(本 名)	住 所
【絵画部】			〈短歌〉	鈴 木 幸 子	大崎市
〈日本画〉	相 澤 孝 子	遠田郡涌谷町	〈短歌〉	千 葉 む 津 (むつ)	仙台市青葉区
〈日本画〉	加美山 裕 子	仙台市泉区	〈短歌〉	八 田 一 夫 (伊藤善雄)	仙台市太白区
〈日本画〉	狩 野 敏 子	黒川郡富谷町	〈短歌〉	皆 川 二 郎	仙台市太白区
〈日本画〉	櫻 井 寛 子	仙台市青葉区	〈短歌〉	渡 辺 なな代	大崎市
〈日本画〉	櫻 井 実	仙台市青葉区	〈俳句〉	伊 澤 二三子	柴田郡大河原町
〈洋画〉	大 槻 弘 子	仙台市泉区	〈俳句〉	鶴 岡 行 馬 (孝則)	遠田郡涌谷町
〈洋画〉	大 沼 四 郎	大崎市	〈俳句〉	中 村 孝 史	仙台市太白区
〈洋画〉	佐 藤 昌 和	角田市	〈俳句〉	山 田 史 子	仙台市泉区
〈洋画〉	三 浦 てつ子	東松島市	〈川柳〉	菅 野 実	仙台市青葉区
〈洋画〉	村 上 泰 子	栗原市	〈川柳〉	北 れい子 (菊地れい子)	白石市
〈洋画〉	和 田 三 夫	仙台市青葉区	〈川柳〉	四 竈 英 夫	白石市
【書道部】			〈小説〉	宇津志 勇 三	仙台市青葉区
	佐 藤 優 子	仙台市太白区	〈小説〉	高 橋 道 子	仙台市太白区
	末 永 瑞 鳳 (裕之)	東松島市	【茶道部】		
	菅 原 聖 谷 (修吾)	仙台市泉区	〈表千家〉	松 崎 宗 明 (明子)	柴田郡柴田町
	南 浦 洋 州	登米市	〈江戸千家〉	赤 間 宗 千 (赤間千枝子)	仙台市青葉区
【華道部】			〈江戸千家〉	武 藤 宗 節 (節子)	仙台市太白区
〈池坊〉	国 分 秀 翠 (梨絵)	仙台市青葉区	〈織田流煎茶道〉	跡 部 南 啓 (啓子)	仙台市青葉区
〈池坊〉	佐 藤 華 誓 (美津江)	岩沼市	〈織田流煎茶道〉	小 林 南 尚 (尚美)	名取市
〈池坊〉	知 識 香 翠 (幸子)	仙台市太白区	〈織田流煎茶道〉	小 柳 南 紫 (ゆかり)	仙台市青葉区
〈池坊〉	三 橋 籐 月 (秀子)	白石市	〈織田流煎茶道〉	佐 藤 南 夢 (むつ子)	仙台市宮城野区
〈池坊〉	宮 崎 峻 翠 (房代)	仙台市青葉区	〈織田流煎茶道〉	菅 原 南 雪 (幸恵)	多賀城市
〈草月〉	制 野 翠 萌 (芳子)	仙台市青葉区	〈織田流煎茶道〉	渡 辺 南 秀 (秀)	仙台市太白区
【洋楽部】			【写真部】		
	高 橋 麻 子	仙台市泉区		牡 鹿 周 一	大崎市
【文芸部】				松 本 隆	仙台市青葉区
〈詩〉	佐 藤 達 男	仙台太白区		山 田 愛 子	仙台市太白区
〈短歌〉	奥 寺 正 晴	黒川郡富谷町			

五分野で初の作品公募

文芸部

優秀作品は文芸祭で表彰

宮城県芸術祭への市民参加をいっそう促進するため、絵画・彫刻・写真部門の公募に続いて、文芸部でも文芸作品の公募を行うことになり、秋の文芸祭に合わせて初の公募が始まった。応募の対象は宮城県内在住の一般の方。

募集部門は、小中学生が対象の「ジュニア部門」と高校生以上が対象の「一般の部」がある。

募集作品は「詩・短歌・俳句・川柳・エッセー」の未発表作品とし、短歌・俳句・川柳は1人1組2首または2句以内。

詩とエッセーは1人1篇。応募は一人何組でも可。ジュニア部門は1組のみ。エッセーは一般の部のみ応募できる。

応募料は、小・中・高校生は無料。大学生・一般は1組千円(定額小為替で作品同封)応募方法は短歌・俳句・川柳はB5判200字詰め原稿用紙。詩とエッセーはA4判

400字詰め原稿用紙3枚以内。応募用紙には「住所・氏名・学校名・学年・電話番号」を明記(学校名・氏名にはフリガナを)し、封筒の表には「芸術祭・詩公募作品」などと朱書すること。

応募はすでに受け付けているが、締め切りは8月10日(必着)。優秀な作品は、10月に開催する「宮城県芸術祭文芸祭」の席上で成績発表の上、表彰する。

各部門の応募先と問い合わせ先は次のとおり。

【詩】砂東英美子
電話022(227)8139

【短歌】森 冴美
電話022(246)1558

【俳句】篠沢 亜月
電話022(263)1659

【川柳】西 恵美子
電話0224(26)1618

【エッセー】牛島富美二
電話022(372)7891

その他の問い合わせは、芸術協会事務局へ。

絵画部スケッチ研修会―5月7日参加締切―

新緑の岩手山・駒ヶ岳・角館へ

本年度の絵画部スケッチ研修会は、岩手山・駒ヶ岳、角館へと足を延ばす。日程は五月中旬過ぎでもあり、岩手山・駒ヶ岳は新緑の真っ只中。目に入る新緑の眩しさはことさらである。

研修地：岩手県御所湖、秋田県田沢湖・角館
宿泊地：駒ヶ岳グランドホテル
仙北市田沢湖生保内駒ヶ岳2
―30 電話〇一八七―四六一二二―
参加費：二万五千元(郵便振替)

また、桜の散った角館もいつもの趣きが期待でき、参加者それぞれの個性が如何なく発揮できる機会になるに違いない。

絵画部以外の一般参加も大歓迎。参加者相互の研鑽と親睦を深め合いたい。

【応募要項】
期日：平成26年5月17日(土)
18日(日)

申込先：芸術協会事務局(電話〇二二―二六一―七〇五五)
【日程】
5月17日(土) 8時30分仙台駅西口バスプール集合(出発)
↓御所湖(岩手山 スケッチ)

芸文協「北斗38号」を発行

特集「魅力あふれる芸術文化活動」

東北六県と北海道の芸術文化団体で構成される「東北・北海道芸術文化団体協議会」による「北斗」第38号が発行された。特集は「わが県・道の魅力あふれる芸術文化活動」。各団体が

ら「青森県の版画活動について」「郷土秋田の民謡を育てる」「震災原発事故から再起する伝統文化」など、それぞれの地域に根ざした普及啓発活動などの様子が報告されている。

当協会からは洋楽部の渡部勝彦部長が「公益社団法人化を機に新発想による事業を展開」と題し、公益法人移行までの過程、今年創立50周年を迎える当協会の取り組み、韓国大邱市との文化交流などについて執筆している。残部があるので、希望者は事務局までご連絡を。



小京都とも言われる角館の風情

昼食) ↓田沢湖(辰子像、駒ヶ岳 スケッチ) ↓石神集落(スケッチ) ↓駒ヶ岳グランドホテル
5月18日(日) 駒ヶ岳グランドホテル ↓角館(スケッチ) ↓昼食処「しちべい」(昼食、鑑賞会) ↓湯田SA ↓仙台駅西口バスプール到着18時00分(解散)

事務局日誌

会務報告

- 3・17 理事会
- 平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- 新入会員(正会員)の承認について
- 会員資格の喪失者について

- ☆宮澤寒山開軒50周年企画「低肺」救済チャリティー尺八演奏会「寒山春光」
- 3月3日
- 日立システムズホール仙台
- ☆連風「笑み舞う」
- 3月9日

仙台・気仙沼・七ヶ浜・石巻・亙理

☆What a Wonderful World

東京公演 3月12日 日本橋公会堂

仙台公演 3月20日 楽楽楽ホール

☆第2回ウイーンフィル&サントリ音楽復興祈念賞 つぶてソングの集い in みやぎ みんなで歌って東日本に元気を立ち上げよう

3月27日〜28日

名取市文化会館

☆第6回宮城一先会書展

3月28日〜30日

せんだいメディアアテーク

☆小熊由里子ピアノリサイタル

3月29日

仙台市宮城野区文化センター

☆龍峰書院翠香書道会一門展

3月29日〜30日
大崎市民ギャラリー緒絶の館

☆第9回 ALL NIPPON D.A.T.E クラシックバレエコンペティション MIYAGI

4月1日〜3日

日立システムズホール仙台

☆第2回子供のための邦楽コンサート

4月5日

仙台市福祉プラザ

☆HOSHI SHINKO 大理石・ブロンズ・デッサン展

4月21日〜6月13日

宮城県立こども病院

☆第八回伸の会染色展

4月25日〜30日

せんだいメディアアテーク

☆シューマンの夕べ歌曲とチェロ作品集を集めて

4月25日

仙台市戦災復興記念館

☆第77回河北美術展

4月25日〜5月6日

藤崎本館七階・八階

☆絵画特別展『原秀一洋画展―扉の詩・花の彩―』

4月29日〜6月29日

カメイ美術館

☆2014みやぎの書60人展

5月2日〜7日

せんだいメディアアテーク

☆第60回全国公募東北書道展

5月16日〜21日

せんだいメディアアテーク

☆ジョイフルコンサート

5月21日

仙台青葉荘教会

☆第44回宮城書芸院書展

5月21日〜25日

大崎市民ギャラリー緒絶の館

☆並木路「けやき展2014

5月23日〜28日
せんだいメディアアテーク

☆第13回夢・楽描き展

5月23日〜28日

せんだいメディアアテーク

☆第50回生田流箏曲演奏会

5月24日

電力ホール

☆第37回白亜会東北支部展

5月30日〜6月4日

せんだいメディアアテーク

受贈書

かけがえない魂の声を(原田勇男)、蔵王の画家菅野廉(玉田尊英)、明日を信じて―亡き友へ―(原田夏子)、句集結葉二 木の会作品集(三)(佐藤明日香)

謹 弔

文芸部(俳句)

佐藤秀殿
12月25日

絵画部(洋画)

鈴木司殿
1月6日

絵画部(洋画)

八幡寛一殿
2月9日

茶道部(宗徧流)

千葉宗文殿
2月27日

文芸部(短歌)

菊地 謙殿
3月2日

事務局職員に奥津典子さん

鈴木裕子さんの後任となる事務局職員として、三月一日付けで奥津典子さんが採用された。当面の身分は期間雇用職員で、任期は一年。常勤職員として庶務などの職務を分担する。

けやきの譜

今号は200号である。1965年(昭和40年)の芸協創立翌年に第1号がデビュー。以来、年に4回、その時々トピックスを交えながら、営々と号数を積み上げてきた。山も谷もあつたであろうと、あらためて先輩諸氏の苦勞を思う。今号はまた、芸協創立50周年の特集号でもある。5月の記念式典を1面で特集し、2・3面は見開きの「芸協とともに半世紀」として、発足以来のメンバーなど6人の方々に思い出などを語ってもらった。▼年末寒波に立春寒波など、寒かった冬と記録にも残る大雪を乗り越えて、桜も咲いてくれた。各地で開花が伝えられたと思つたら、桜前線は急ピッチで北上。本州最北の青森でも、昨年より一週間ほど満開の時期が早まりそうだ。▼創立50周年を記念し、絵画、彫刻、写真部に続いて文芸部も、今年から作品の公募を始める。こちら満開といきたいものだが、それにつけても、鈴木裕子さんの悲劇からもう半年。捜査はどうなっているのか。このまま迷宮入りとは考えたくないのだが。(恂)

事務局から

◆会費納入のお願い

新年度を迎えましたので、平成二十六年度会費の納入をお願い致します。自動振替の会員は、今年四月三十日が引き落とし日となりますので、指定口座をご確認願います。郵便振替をご利用の会員は、同封の振替用紙で五月三十一日までに納入願います。なお、郵便振替の方は、事務処理上、できる限り自動振替(手数料は芸協負担)への切り替えをお願い致します。

◆会員名簿発行について

隔年発行の当協会会員名簿

◆会費納入のお願い

は六月三十日付で「平成二十六年版」を発行いたします。記載事項に変更のある会員及びプライバシー保護の観点から、住所や電話番号掲載の辞退をご希望の会員は、五月末日までに事務局(電話022-261-7055)に連絡願います。辞退者は所属部門と氏名のみ掲載となります。また、名簿には広告を掲載しており、各部門が関係する店舗・企業等の紹介にご協力願います。料金は一ページで三万五千円、二分の一ページで一万四千円、五分の一ページで七千円です。